

「土器づくり」

1月22日(木)6年生が土器づくりに取り組みました。講師は、市文化財課の方です。

講師の先生の熱く、分かりやすい説明を聞いて作業開始。まず、粘土に砂を混ぜて、均一になるようによく練ります。これは、乾燥・焼成した時の収縮による割れやゆがみを防ぐためだそうです。手のひらに体重をかけてガシガシこねていきます。さらに、粘土板にたたきつけて空気を押し出しながら形を整えます。(乾燥を防ぐため空気に触れる部分を最小にしたいので球か、サイコロの形がいいとのこと。なるほど。)次は、土台です。実際に煮炊きができる土器を目指しているので、大事な部分だそうです。そこから、側面の部分を重ね上げて器の形に仕上げていきました。口が広がったものや狭くなったもの、丸みをもったものなど、それぞれが考えた形を表していきました。土器といえば模様です。縄目や棒を押し付けたものや粘土をつけて盛り上げたものなどさまざまな模様ができました。ほぼ半日かかった作業でしたが、子どもたちは楽しそうでした。

さて、約1ヶ月、しっかりと乾燥させた後、野焼きによる焼成となります。“煮炊き可能”な土器のできあがりを楽しみます。

